



コドモノ明日研究所 ～ブドウ果汁を使って新商品の開発をめざす～

「遠い未来のことより、まずは、明日、高浜町にあったらいいなと思うことを考えていこう。」このコンセプトで、高浜の明日(未来)を創造し、まちづくりに挑む「高浜明日研究所」の方々からの依頼を受け、現在、高浜小学校では、町内で生産されているブランド葡萄「若狭ふじ」の果汁を使った新商品の開発を進めています。

依頼を受けた本校6年生は、「コドモノ明日研究所」を結成し、互いに協力してアイデアを出し合い、議論を交わして八つの新商品を考案し、11月30日に新商品のプレゼン大会を行いました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、「高浜明日研究所」の代表の方々と保護者、教育関係者、本校5年生は、体育館で視聴し、他の高浜明日研究所の方々は、リモートで参加していただきました。また、1年生から4年生の児童も、教室からZOOMを使ったオンラインで参加し、各教室から質問や意見を積極的に発言してくれました。今後は、提案した新商品について、全校児童に実施したアンケート調査の集計結果をもとに具体的に商品開発を進めていきます。

本校では、スクールプランの柱の一つに「地域に根ざした学校」を掲げており、子どもたちの主体性や地域への誇りと愛着を育むことを目的として、保護者・地域団体の協力のもと、教育課程の中に効果的に郷土学習を取り込み、地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育む取組を行っております。

本年度は、コロナウィルス感染拡大の影響で様々な活動に制限があるものの、このように保護者や地域の方々のご協力とご支援を得ながら、豊かな環境の中で教育活動ができていることに心から感謝しております。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



人権作文集「きずな」の発行

今年度も人権作文集「きずな」を発行いたしました。この人権作文集「きずな」には、子どもたちの豊かな感性で人権についてとらえた作品が載せられています。思いやりに満ちた温かい心や社会のあり方を鋭くついたまっすぐで純粋な気持ちにあふれた子どもたちの作文には、人の心に響くものがあります。この「きずな」を読むことで、他人の心の痛みに気づいているか、身近なところに差別や偏見の種が隠れていないか、互いの人権を尊重できているかなど、自分自身の心を見つめ直すきっかけになります。そして、私たちに感動と勇気、希望を与えてくれます。

さらに、この「きずな」を読んでいた保護者の皆さんからもたくさんの感想・ご意見をいただいています。読ませていただき、子どもたちの心に寄り添い、感動を共にしておられる皆さんの様子が、お寄せいただいた感想・意見から溢れ出ており、心から感動しました。今後とも学校と家庭、地域が連携を密にし、人権教育を推進していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。



道徳公開授業・人権作文発表会

12月4日に、PTA授業参観として、人権作文発表会と全学年道徳の授業公開を実施いたしました。人権作文発表会では、それぞれの学年の代表者が自分の人権作文を発表してくれました。発表を聞いていて、子どもたちの素直で純粋な感性と優しさ、そして、堂々と発表する姿に心を打たれ、思わず目頭が熱くなりました。参観された保護者の方々も同じ気持ちで見守られていらっしゃるのではないかと思います。事前に本人やご家族の方に許可をいただいた作品もあります。「自分のこと」「友だちのこと」「家族のこと」「地域のこと」など子どもたちが自分の心と向き合い、真剣に悩み、考え抜いた作文には、子どもたちの願いや思い、そしてこれからの決意(生き方)が詰まっています。



発表の後、学年毎に作文についての感想や意見交流をしました。作文の発表に心を打たれ、他人事ではなく、自分のこととして受け止められた子が多くいてくれたことがうれしかったです。この発表会で感じたことや決意したことを、心の中に留めるのではなく、日々の生活の中で一歩踏み出すきっかけにしてくれることを願っています。

達人に学ぶ書道教室 ～絵手紙・水墨画にも挑戦～

本年度も、県書道推進事業〈達人に学ぶ書道教室〉で、書道家石田吉啓さんに、書道を教えていただいております。高浜小学校の子どもたちにとっては、本格的に書道を学ぶ貴重な機会です。真剣なまなざしで石田先生の動作や筆遣いを食い入るように見つめて学習しています。また、今年は、書道の指導に加え、3年生と4年生に「絵手紙」を、そして、5年生と6年生には、「水墨画」を教えていただきました。いつもは字を書くために使っている墨ですが、絵を描く道具として、にじみやかすれなど新しい表現方法について学びました。子どもたちは初めて挑戦する水墨画でしたが、緊張しながらも、個性的な作品づくりに意欲的に挑戦していました。



「命のぬくもり～大切な命～」 (5年生)

5年生は、総合的な学習の時間に「命」をテーマとした学習に取り組んでいます。11月11日には、たきざわ助産院(産前産後の家)の助産師佐野裕子先生を講師としてお招きし、「命のぬくもり～大切な命～」と題して、胎児の様子や命が誕生する時の温かい話、そして、一人一人が生きる力を持って生まれてきたことやかけがえのない大切な命であることをお話をしていただきました。さらに、佐野裕子先生から、「生命の誕生は奇跡であり、今ここに生きているあなたも、隣にいる友だちも、そして、すべての人の存在が奇跡そのものであること。」を教えてくださいました。子どもたちは、自分自身はもちろん、家族や友達、そして、すべての人がかけがえのない存在であることを確かめました。



この「命の学習」を通して、子どもたちは「命」の重みを実感し、生命の尊さを感じ取ることができたと思います。そして、自分自身の育ちを振り返り、家族や周りの人への感謝の気持ちを抱くことができたことでしょう。今後は、自分自身を大切にするとともに、自分と関わる様々な立場の人を尊重しながら、夢と希望をもってたくましく成長していけることを期待しています。